

全員協議会 会議録（要点筆記）

平成26年9月10日（水）

午後 1時30分 開会

午後 1時44分 閉会

場所 : 全員協議会室

〔上程議案の補足説明〕

1 半田市新庁舎建設工事の契約金額変更について

水野節総務部長：資料に基づき説明

中川健一議員：最後の説明の歳入のところですが、市債を4,100万余りというのですが、これは繰越金だとか別の資金調達方法も財政調整基金もあるはずですし、何故市債にしたのかその辺りの説明をお願いします。

水野節総務部長：現段階では、この新庁舎建設につきましては、当初より基金の積み立てをしてまいりました。その基金と足りないところについては、市債を借りてやっていこうと計画をしてまいりましたので、現段階では市債を借りる予定で補正予算を組まさせていただきます。今、中川議員がおっしゃるように一般財源を充てるやり方もあろうかと思いますが、財政調整基金も勿論あるとは思いますが、現段階ではこういう形で補正予算を組まさせていただきます。

中川健一議員：いろんな考えがあろうかと思いますが、財政調整基金の目標が30億円ということになっていて、今、30億円以上ありますよね。でしたらその30億円超えたところを使うという方法もあるわけですし、何故この時点で借金をするのかという理由の説明が無いので、何故、財政調整基金を使わずに、繰越金を使わずに借入を行うのか。例えば、補助金をもらうためにその方が有利な点があるとか、そういう説明がして欲しいわけです。どういう理由でそうしたのか説明していただきたい。

水野節総務部長：まず、財政調整基金でありますけれど、ひとつの目標としては、30億円程度、予算総額の1割ということもひとつの目標ではありますが、新庁舎については、当初より大型事業については、将来の市民の方にも一定の負担をお願いしていくということもあって、大型事業をやる場合は、基本的には将来負担もお願いしていくということで、市債を借りてやっていくという形で今までも進めてきております。

中川健一議員：それでしたら何故、新庁舎建設基金を何十億も積み立てしたのか、そのような理由だったら最初から全額借入でやればいいじゃないですか。説明に一貫性がないわけです。考えていないなら、考えていないけれどやったと言ってもらえば結構なので、今言ったことだけでも矛盾があるわけだから、しっかり説明をしていただきたい。

水野節総務部長：今まで繰越等を新庁舎建設基金に積み立てをしてきました。これは、将来負担をお願いしていくうえでも、少しでも負担を減らしていくということで、今まで基金に積んでまいりましたので、現段階で基金については、すべて新庁舎建設事業で使っていくことになっております。残りについては、将来負担

の方でお願いするということで、市債を組む形でお願いするものです。

松本如美議員：金額変更のスライドのところですが、このとおりで私は了解しますが、一方でＪＶからは資機材費と労務費が対象ということで話があって、ここにあるように残りの工期が３か月だから一般的にみても普通、調達しているはずだと思いますから、この文章どおりで良いですが、何故そういう段階でもＪＶ側からは入れ込んであったのかという点と、協議の結果労務費だけに下したわけですが、その点についてＪＶ側のコメントはあるのか。もしＪＶ側の言う事が正ければ、その跳ね上がった分を自分達でかぶるという覚悟がいますと思いますが、その辺りのやり取りの経過と結果が分かっていたらお願いします。

水野節総務部長：当初、ＪＶ側から資機材費も一部ではありますが、入っておりました。これについては、調整する中で説明で申し上げました、この時期でありますと一般的には、資機材の調達については概ね済んでいるということであります。ただ、実際には一部発注が済んでいないものもあると聞いておりますが、それは、例えば物を発注する時に市がＡという物を言った時に、当然ＪＶとしても同じメーカー以外の物であっても、品質が落ちなければ少しでもコストを下げるために模索といいますか、いろいろ検討している中で実際の発注が少しずつ遅れていくという場合もあるようですので、今回については、通常であれば発注が済んでいるということでＪＶ側の理由ということでありましたので、これについてはご了解をいただいています。